

## 「屋根に根付いた落葉松(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

北軽井沢にはカラマツが多い。カラマツは材が腐りにくく、成長も速いので、戦後積極的に植林されたのだ。それが、現在は広大な植生を創り上げている。



私の山荘も、四方をカラマツの木々に囲まれている。カラマツは「落葉松」の名の通り、針葉樹では珍しい落葉樹だ。晩秋にはすっかり葉を落とすが、高原の樹木の中では、比較的遅くまで葉を残す。上の写真は10月中旬の様子だが、カラマツはまだ緑を残し、まったく落葉していない。



11月に入ると、カラマツはすっかり黄葉する。森の中で木々を見上げると実に美しいが、注意も必要だ。カラマツは冬に葉を落とすので、枝は雪の重みに耐える弾力性はない。枝が非常に折れやすいのだ。風の強い日は、突然、かなり太い枝が落ちてくることもある。



11月の北軽井沢には「金色の雪」が降る。カラマツの落ち葉だ。一年で一番いつくしい季節だと思う。



11月中旬になると、ほとんどのカラマツの樹は、すっかり葉を落とし終わる。枝の弱いカラマツにとって、雪の重さは命取りなのだ。初雪の前にすべての葉を落とせるかどうかは、死活問題なのだ。



庭もテラスもカラマツの葉が積もって、地面も金色に変わる。週末のたびに掃除するのだが、ほんの1時間でまた積もる。そのうちあきらめてしまうのだ。